２－２－３）

「伊豆沼から全国へ超元気を発信する協議会」の活動報告

伊豆沼から全国へ超元気を発信する協議会　佐藤　耕城

宮城の県北に位置する登米市迫町新田は、ラムサール条約湿地の伊豆沼があり、夏は蓮が大輪の花を咲かせ、冬は白鳥や雁が群れをなして飛び交う光景が広がる地域です。「伊豆沼から全国へ超元気を発信する協議会」は 2008 年に発足し、伊豆沼地域を中心に活動しています。行政・企業・環境保護団体・地域住民団体等から構成されており、地域の農業や食文化を守り育てながら、環境保全と産業振興が共存し、人と自然が一体となる地域を目指して日々活動しています。

活動内容としては、地域農畜産物の商品開発、食文化調査、地域の「あるものさがし」（普通のものに価値を見つける。）などの結果をもとに、食農環境教育プログラムに利用可能な資源を選定し、交流プログラムやネイチャーレストランメニューを開発してきました。

水田の生物多様性向上に関しましては、ふゆみずたんぼでの食農環境教育プログラムを実践しています。現在は地元小学校と連携し、田植えや生きもの調査、収穫などの体験プログラムを通じて、次代を担う子供たちに食農・環境の大切さを伝えています。

「田んぼの 10 年プロジェクト」に参画してからは、水田の生物多様性向上に関する広報、教育、普及啓発を推進すべく、新たな体験プログラムの計画立案、情報発信に注力しています。

今後は「田んぼの 10 年プロジェクト」に参画している皆さんとよりいっそう情報交換や連携を深め、環境負荷の少ない持続可能な社会構築を目指していきたいと思います。

写真：ふゆみずたんぼの生きもの調査